

# 地域と協同の 161号 研究センターNEWS

2018年1月25日発行

【巻頭言】

## 飛騨市宮川の団欒と買い物を応援するカフェ「み～んなよらまいか」 ～コープぎふ飛騨支所と飛騨市との連携でスタート～

大坪光樹（生活協同組合コープぎふ理事長，地域と協同の研究センター理事）

昨年暮れ、2017年に日本で生まれた赤ちゃんが過去最少となり、少子化と人口減少が一層顕著になったとの新聞記事を目にしました。

ご他聞に漏れず、岐阜県の人口も10年前の210万人から約9万人減少し、201万人となりました。これは、ちょうど関市や高山市に匹敵する人口が10年間で消えてしまったこととなります。一方、世帯数は、核家族化の進行により3万9千世帯増加しています。

生協の事業の現場でも、地域の暮らしを支えてきた商店が姿を消す中、生協の宅配が命をつなぐ唯一の手段になっている地域が市街地、山間地を問わず増加しており、共同購入や夕食宅配での見守り事例も増加しています。

そのような中、昨年11月、飛騨市宮川地区でコープぎふ飛騨支所と飛騨市が連携して、地域にお住まいの方々の団欒の場作りと買い物応援とを兼ねたカフェ「み～んなよらまいか」の実証実験がスタートしました。カフェの運営には、コープぎふの組合員さんらで作る「おたがいさまひだ」も関わっていただいています。生協の得意とする共同購入の仕組みと、おたがいさまひだの皆さんが培ったカフェのノウハウを生かし、宮川支所（旧宮川村役場）を会場に、お茶を飲んで語りながら生協の注文を行ないます。行政からは、会場の提供や住民への案内・説明等々で協力をいただいています。

全国では、生協をはじめ様々な団体が移動販売に取り組んでいる事例を耳にしますが、総務省の調査によれば、その7割が赤字を抱え行政等の補助金終了とともに撤退する事例も増えているといえます。コープぎふも以前、恵那市の実証実験として、串原村、上矢作村での移動販売に取り組み、住民の方々のニーズとのマッチングや運営コストの問題など様々な課題が浮き彫りとなり、現在の我々の力量では困難との判断をした経験があります。

今回、飛騨市での試みは、生協が最も得意とする共同購入の仕組みを使つての挑戦となります。地域の暮らしに責任を持ち続けられる取り組みとなるよう、住民、行政と一体となって育てていきたいと思ひます。

（おおつぼ・みつき）

CONTENTS

- ▶ 巻頭言：飛騨市宮川の団欒と買い物を応援するカフェ「み～んなよらまいか」 大坪光樹
- ▶ 2017年事業から：くらしと生産をつなぐものづくり第一弾！ 向井 忍
- ▶ 2017年事業から：第九期・共同購入事業マイスターコース 事務局
- ▶ 農業・農協問題研究所フォーラム報告 事務局
- 情報クリップ
- 企画案内「前川喜平さん講演会inぎふ」等

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 8

地域と協同の研究センター 1月の活動

- 1/11（木）研究フォーラム環境世話人会
- 1/12（金）三河地域懇談会世話人会
- 1/13（土）共同購入事業マイスターコース八期生実践交流会、くらしと生産をつなぐものづくり②
- 1/15（月）NEWS編集委員会
- 1/18（木）協同の未来塾⑦
- 1/19（金）協同組合による大学での学びと進路選択の支援②
- 1/22（月）市民講座企画検討会④、三重地域懇談会世話人会
- 1/23（火）研究フォーラム地域福祉世話人会
- 1/25（木）尾張地域懇談会「豊明おたがいさまセンターちゃっと」訪問、研究フォーラム職員の仕事を考える世話人会
- 1/27（土）共同購入事業マイスターコース⑥
- 1/28（日）協同組合による大学での学びと進路選択の支援③
- 1/29（月）常任理事会⑧

# 「くらしと生産をつなぐものづくり」第一弾！

## 「商品の価値とは？協同組合はどう伝えるか」を開催しました。

日時：12月16日（土）10～13時 会場：生協生活文化会館

地域と協同の研究センターでは、消費者（生協組合員）と生産者（生協商品を製造する生産者やメーカー）の双方で「くらしと生産をつなぐものづくり」の方向を考える企画を開催しています。1回目は「製造された商品の価値をどう伝えるか」、2回目は、「農業生産者と消費者でどのように協同するか」（1月13日に、JAひまわりの産直協議会、女性部を囲んで懇談）、3回目は、「生協組合員の利用情報をもとに、くらしからの期待を探る」がテーマで2月17日（土）に開催します。本号では第一回の様子を紹介します。

### 報告「協同組合は商品の価値をどう創るのか」

中部学院大学・経営学部の安藤信雄教授は、「大量生産システム」を事例に、生産工程は「情報」を転写するプロセスであることが説明されました。

「情報」とは生産や取引で必要な知識、データなどの全てをさします。情報は共有しないと意味がない、また独り占めできないという特徴があります。生産現場や専門分野ごとに情報（知識）があり、それを理解・共有するために組織が必要となります。お金を出して買わなければならない情報もあります。生産者は製造した商品の情報がわかりますが、消費者にはわかりません。これを「情報の非対称性」といいます。「情報の非対称性」を克服するために「制度と習慣」が大切です。長く培われた社会慣行によって取引がスムーズにすすみます。人々の習慣を学習し組織化することが市場取引に役立ちます。生活の文化や習慣が違う人がぶつかるとイノベーションが起きます。

人間の生活を考えると、人間自身は消費することで再生産されます。人間は消費することで情報の媒体となり、次の生産に生かされます。このように考えると、市場の中では企業よりも、さまざまな製品や生産者の情報をコンサルタントして消費の仕方＝生き方を提供できる消費生活協同組合の方が最適だと考えることができます。生協はコンサルタントとしての優位性を発揮して、商品の価値を伝えることが大切ではないでしょうか。

（大意を要約）

### 報告「九鬼産業の”妥協しない商品づくり”。

**その思いと取り組み** 九鬼産業株式会社の九鬼紋七代表取締役会長は、「妥協しない商品づくり」について紹介されました。

九鬼産業は、搾法でゴマ油を搾る製法と小ロット生産できる体制を生かして、ゴマ業界の中で品質にこだわって存在感を高めています。1. **ゴマの品質安定（安全性）**。2. **ニーズ・市場の声を聴く**（リクエストを開発部署で取り上げ、特徴あるごま油をつくっている。香りをもっとまろやかに・和食や韓国料理に合う。柔らかいごま油でお刺身を食べる。温野菜に振るだけで美味しいごま油。油分を30%カットしたすりごまも開発した）。3. **フェアトレード**（開発途上国の製品を適正な価格で購入することで、生活改善と自立を目指す。中堅社員が年に一回行って、畑を見て、検査体制を見て確認している）。4. **社員教育**（資格取得の応援など）。5. **国産ゴマの生産**（三重県と協力し県内にゴマ耕作地を広げ、作業も機械化して効率化。国産ゴマ生産で三重県は5番以内に入る、新入職員もゴマ生産を研修）。

研究センターの場では10年以上前から「ものづくりの思いを語る会」を開いている。生協組織だからできる顔が見える関係で、新しい形で接点をつくる工夫ができないでしょうか。（大意を要約）

■意見交換では、「消費と生産をつないで暮らし（人間）づくり」という考え方を大切にしましょうと話されました。

向井 忍（むかいしのぶ）

**2017年度、第九期「共同購入事業マイスターコース」を開講してきました！**

文責：事務局（大島三津夫）

地域と協同の研究センターでは、東海の三つの地域生協（コープぎふ、コープあいち、コープみえ）で働く職員を対象に、共同購入事業マイスターコースを開講しています。2009年度に第一期を開講し、2017年度で第九期となりました。これまで209人の共同購入事業を担う職員のみなさんが受講しています。

**共同購入事業マイスターコース開発の考え方**

- ①コース開発の意図は、生活協同組合の共同購入事業において、その仕事の豊かな価値を担える「プロのオペレーション・スタッフ=マイスター」を養成する専門コースをつくりたいということです。
- ②専門コースで、共同購入事業の仕事に求められる価値を果たす担い手を育みたい。人とのつながりをつくるコミュニケーションや、生協の利用をくらしに生かすお手伝いするプロモーション行動の際に、求められる人間としての豊かな力を活かす仕事観や、共同購入事業の果たす役割や深い使命感などを学び合いたい。
- ③そして、プロ=マイスターとして認定できる担い手を育み合いたい。修了者にマイスターとしての学びを修了した認証と呼称を与えられる個人を育みたいと考えコースを開発しました。

**学びの手法と場の設計への考え方**

講義は最小限の時間で体系的講義を設け、参加型の学びで、ともに「教えられて、知って、学んで、考えて、研究して、実践して、そして学ぶ」という循環をつくりたいと考えました。また、生協の組合員、役員、幹部・先輩職員、そして、なるべく東海地域の他企業や団体の方々、研究者の方々に講義や講話、または交流の機会をいただいで場を設計するようにしています。

**第九期「共同購入事業マイスターコース」開催日程**

- 2017年7月1日（土）第1回「協同の価値と地域担当の仕事」プロローグ&基本・伝統・継承
- 7月29日（土）第2回「生協運動の使命と価値を考える！」
- 9月2日（土）第3回「人とコトをつなぐ仕事づくり」～「コミュニケーションと行動」
- 10月9日（月）第4回「主体的な仕事づくり&心ある行動…ホスピタリティを学ぶ」
- 11月11日（土）第5回「一人ひとりの組合員のくらしと向き合う活動」
- 2018年1月27日（土）第6回「モノづくりの心を学び合い、くらしと向き合う」

2月18日（日）第7回「消費者主権の協同を起点に社会を考えよう！」&修了式

受講生は毎回事前課題に取り組み、開講日は講義を受けて事前課題の内容も交流し、テーマに関わるグループワークに取り組みます。例えば第3回は、「人とコトをつなぐ仕事づくり」がテーマです。事前課題で受講生は最低5人の組合員さんに「何か生活の中でお困りのことはありますか？」と聞いてメモをとり提出します。第3回の当日、グループに分かれ聴いてきた困りごとを交流し、「組合員の困りごとの解決を考え合う」をテーマに話し合います。そして、第4回に向けて、聴いてきた「組合員の困りごと」について、「担当者としてできること」を、何か一つ取り組むことが事前課題です。第4回でテーマ「ホスピタリティの営みと価値」の講義を受け、グループ研究では事前課題で取り組んだことを交流して、地域担当の仕事を考え合います。こうした学びの循環で、共同購入事業での地域担当の仕事について深め合っています。

第九期「共同購入事業マイスターコース」も第5回まで開講し、第6・7回の2回を残すのみとなりました。修了しマイスターとなるみなさんの今後の活躍が楽しみです。

**第4回でのグループ研究の一部を紹介します！**

- テーマ「地域担当の仕事を考え合い、学び合う！」
- ・地域担当の仕事は、行動で解決することです。
  - ・地域担当の仕事は、地域の方の思いや声に気づいて地域貢献することです！
  - ・私たち地域担当の仕事は、組合員の日々の暮らしのお困りごとを共に解決することです。
  - ・私たち地域担当の仕事は、ほんとうのありがとうをふやすことです。
  - ・私たち地域担当の仕事は、気づき・考え・行動することです。



第2回でのグループワークから

フォーラム

農業・農協問題研究所、同東海支部、農山村移住と農のある暮らし in 奥三河実行委員会共催

# 農山村移住と農のある暮らしを考える in 奥三河

**市長さん**

新城市 穂積市長



**移住農家**

織田さん



**農協の組合長さん**

愛知東農協 河合組合長



**市や農協職員**

新城市役所 夏目さん



愛知東農協 原さん



農林業公社



原田さん

**高校生**

新城高校 清水さん



新城高校 生田さん



実行委員会共同代表・元新城高校校長

夏目さん



**主催者**

実行委員会共同代表・愛知学院大学

関根准教授



農業農協問題研究所 田代理事長

**農協女性部のみなさん**

愛知東農協女性部 山本さん、加藤さん、滝川さん



新城文化会館 大会議室

**94人集まって、みんなで考え、話し合いました！**

2017年11月18日愛知県新城文化会館で奥三河における農山村移住の実態について、真剣な話し合いが行われました。これは、農業農協問題研究所、同東海支部及び現地実行委員会による共催で開催されたもので地域と協同の研究センターは協賛団体として実行委員会に加わり運営に参加しました。

このテーマについては昨年、同研究所東海支部の研究例会に引き続くもので、昨年は移住就農者等の実情について話しあいましたが、今回は現地開催により受け入れる側の体制づくりや現状、さらには奥三河地域の課題についても話し合われました。

最初に関根准教授より農山村移住の再評価、逆都市化、地域再生、都市と農山村の共生を目指す動きがあること。時期については景気変動が要因としてあることや、移住理由や年齢については定年後、脱サラ、人生観など様々である点など指摘し、全国的には新規就農者は横ばいであるが、愛知県の中山間地域への新規就農者が増加している現象から、新城市を中心とした奥三河地域の受け入れ主体のネットワークについて学びたいとし、論点を提示しました。

報告では、新城市農業課の夏目氏より、過疎化や高齢化が進行する中、計画的に新規就農者の増加を目指し、新規就農者、生きがい型就農者、雇用就農者にわけて対応していること。農林業公社しんしろ

の原田氏からは、農林業の振興と地域環境保全のために、担い手と土地の確保や新規就農者のための研修事業も実施していること。愛知東農協営農部の原氏からは、作物等産地化を提案し、販売高の向上を目指すと共に、施設のリースや資金の融資、農地貸付などに取り組んでいること。実際の就農者である織田氏からは、就農当時の苦労話を取り混ぜながら一生できる仕事としての農業の魅力を語りました。

次に、移住者を含む地域交流の場の事例として、Aコープの閉店を機に農協女性部が急きょ開設した八名朝市「やなマルシェ」の活動が紹介されました。また、次代を担う就農希望の高校生からは、それぞれ農業への希望と期待、そして高校における就農予定者重視の政策要望が語られました。

質疑応答の後、最初から最後まで参加された穂積市長や河合組合長は口々に、この地域には行政や農協、生協や商工会などの連携が欠かせず、互いにリスクを分かち合いながら、むしろ都市部よりも若者を後押しする力があると語られました。

最後に①新規就農者支援に協同の力が大きく働いている。②中山間地域では地域密着的な対応が重要。③国の農林業政策への責任。④次世代へ農林業の魅力をどう伝えるかが課題。とのまとめをしました。

人口減少が進む中山間地域ほど協同の力が必要であり、組織間の垣根を取り払い住民が主体で地域を動かしていく連携の力を感じることができました。

(野田幸男)

# 情報 クリップ



メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 半 定価 判型
<p>▶生協で働く くらしを支える誇りと 喜び</p> <hr/> <p><b>NAVI</b> 2018. 1 No. 790</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p><b>特集 生協で働く くらしを支える誇りと喜び</b>  <b>新春対談</b> 消費者庁・岡村和美 長官 日本生協連・本田英一 代表理事会長                      &lt;コープのある風景&gt; いばらきコープ                      &lt;地域に愛される店づくり・人づくり&gt; 福井県民生協 ハーツはるえ                      &lt;今月のコープで笑顔がキラリ&gt; 東都生協                      &lt;エッセイ わな猟師の春夏秋冬&gt; 千松信也                      &lt;宅配・現場レポート&gt; 第7回全国生協安全運転大会                      &lt;生協大好きママ コプ山さんの 教えて!CO・OP商品&gt;                      CO・OP長崎風ちゃんぽん                      &lt;日本全国ふだんのくらしを支えたい&gt; コープさっぽろ                      &lt;想いをかたちにコープ商品&gt;                      減塩カップ麺 CO・OPやさしい味わいシリーズ                      &lt;熊本地震復興支援情報&gt; 生協くまもと                      &lt;明日のくらし ささえあうCO・OP共済&gt; いわて生協                      &lt;この人に聴きたい&gt; 作曲家・ピアニスト 加羽沢 美濃さん                      &lt;ほっとnavi&gt; コープあおもり・青森県民生協 パルスシステム連合会</p>	<p>2018 年 1 月 A4 判 36 頁 360 円</p>
<p>▶日本協同組合学会 第 36 回 春季研究大会</p> <hr/> <p><b>協同組合研究</b> 2017. 12 第 37 巻 第 2 号 (通巻 101 号)</p> <p>日本協同組合学会</p>	<p><b>特集 1 日本協同組合学会 第 36 回 春季研究大会</b>                      地域のニーズに協同組合は連携、連帯してどう応え、                      またそれによってどのような地域社会をつくるのか</p> <p>座長解題 . . . . . 前田健喜</p> <p><b>【第 1 報告】</b>                      “おたがいさま”の活動から地域のつながりへ                      ～おたがいさまの心が創る「これからの世界」～                      高橋玲子</p> <p><b>【第 2 報告】</b>                      「中山間地における住民主体の生活支援」を支える協同組合間協同の役割                      —愛知県奥三河の事例から—                      向井 忍/前澤このみ/小山幸浩</p> <p><b>【第 3 報告】</b>                      県段階の協同組合間連携事例報告 足跡からみる神奈川                      ～先輩たちの取り組みの思いをつなぐ～                      丸山善弘</p> <p>コメント 北川太一/和田寿昭                      相良孝雄</p> <p>特集 2 新協同組合理論研究会 (2017.4.18)</p> <p>特集 3 『協同組合研究』100 号記念企画                      「協同組合研究の未来を紡ぐ」座談会・本編 (後半)                      …青木美紗/大高研道/久保ゆりえ/小山良太/成田拓未/走井洋一</p> <p>研究論文                      農作業ヘルパーの農業・農村への関わり方に関する一考察                      —北海道富良野市における就業者の属性と就業意向の分析から—                      福澤萌/小林国之/坂下明彦                      北海道の農業・農村を支える農協女性部の役割                      ～農村女性部の地域特性を考慮して～                      高橋祥世</p> <p>書評                      濱田武士・小山良太・早尻正宏 著『福島に農林漁業を取り戻す』(高橋巖)                      若林靖永・樋口恵子 編『2025 年超高齢社会のコミュニティ構想』(米澤旦)                      田中秀樹 編『協同の再発見—小さな協同』の発展と協同組合の未来』                      (伊丹謙太郎)</p>	<p>2017 年 12 月 B5 判 92 頁 2,160 円 (消費税込)</p>

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価 税別
<p>▶JA自己改革の現場から</p> <hr/> <p><b>月刊 J A</b></p> <p>2018. 1 vol. 755</p> <p>全国農業協同組合中央会</p>	<p><b>新春対談 JAが地域になくなくてはならない組織になるために</b>                      中家 徹 (JA 全中会長) 杉 良太郎 (歌手・俳優)</p> <p><b>特集 スゴイ農業、スゴイ J A JA 自己改革の現場から</b>                      ファーマーズマーケットを核とした営農経済事業の構築                      ～「さいさいきて屋」は地域の食と農の結節点～                      ー J A おちいまばり (愛媛県) の取り組み 細野賢治                      トピック マレーシア発 中家会長が I C A 理事に J A 全中 国際企画部                      農政トピック                      組合員のメンバーシップ強化について考える                      J A 全中 J A 支援部 組合員 ぐらしの対策推進課 ほか                      きずな春秋 ー協同のこころー 童門冬二                      私のオピニオン 大村 智</p> <p>短期集中連載 ②                      世界から見れば、歴史から見れば                      ～食・農・暮らし・協同の本質との出会い～                      現代に甦れ! 川崎平右衛門 蔦谷栄一</p> <p>展望 J A の進むべき道                      財務諸表監査とは                      山田秀顕 (J A 全中常務理事)</p> <p>海外だより [D. C. 通信] 連載 80                      ここまで違う? アメリカの牛乳消費事情 吉澤龍一郎</p> <p>平成 28 年度 J A 経営マスターコース優秀論文紹介                      全国共済農業協同組合連合会会長賞                      攻めの採用活動                      梅田雅也 / J A 大阪南 (大阪府)</p>	<p>2018 年 1 月 A 4 判 48 頁 年間予約 5,109 円 (消費税込)</p>
<p>▶地域社会における                      拠点づくりを進める                      ～2050 研究会構想                      「集いの館」の実現                      に向けて～</p> <hr/> <p><b>生活協同組合研究</b></p> <p>2018. 1 Vol. 504</p> <p>公益財団法人                      生協総合研究所</p>	<p>■巻頭言                      未来の雇用を考える 小方 泰</p> <p>▶特集 <b>地域社会における拠点づくりを進める</b>  <b>～2050 研究会構想「集いの館」の実現に向けて</b>                      「集いの館構想」地域ワークショップ ～第 2 次 2050 研究会の取り組みとこれから～                      若林靖永                      地域の機能・資源を統合するまちづくり ～「おたがいさまコミュニティ」～                      前田展弘                      地域におけるミニスーパーの取り組み                      「寄り合い処くつつき」の拠点づくり 白鳥和生                      渡部博文                      2050 研究会「集いの館」構想モデル計画について                      ～パルシステム東京における地域拠点の設置構想～</p> <p>辻 正一・小方 泰                      コラム 1 人口減少・高齢社会における「共助」と「商助」 天野恵美子                      コラム 2 最大公約数? 最小公倍数? 日向祥子</p> <p>■研究と調査                      テキストマイニングを用いた地域生協のミッション・ビジョンの検討                      玉置 了</p> <p>■海外情報 欧州 6 ヶ国の生協の経営概況                      ーイギリス、フィンランド、スウェーデン、デンマーク、                      スイス、スペインの生協の 2016 年度決算概況からー 佐藤孝一</p> <p>■時々再録                      問いが透明性を保つー更田豊志・原子力規制委員会委員長会見ー                      白水忠隆</p> <p>■本誌特集を読んで (2017・11) 斎藤雄介・東久保浩喜</p> <p>●公開研究会                      「女性と子どもの貧困 地域や生協で支援できること (仮)」</p> <p>●2018 年全国生協組合員意識調査『並行調査』募集のご案内</p>	<p>2018 年 1 月 80 頁 B5 判 本体 500 円</p>

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価 頁数
▶機能分化・病棟再編へ、 地域包括ケア病棟をど う活かしていくか	新年の御挨拶 会員ニーズに即した自己改革を役職員一丸となって <div style="text-align: right;">神尾 透</div> 新年の御挨拶 全国共同購入・内部統制・地域づくりの3課題に全力をあげて <div style="text-align: right;">東 公敏</div> 新年の御挨拶 <div style="text-align: right;">役職員一同</div> 新春インタビュー 機能分化・病棟再編へ、地域包括ケア病棟をどう活かしていくか 仲井培雄 二木教授の医療時評 (155)	2018 年 1 月 B5 判 88 頁 文化連報 編集部 03-3370-2529 *注
文化連情報 2018. 1 No. 478  日本文化厚生農業協同組合連合会	『平成 29 年版厚生労働白書ー社会保障と経済成長』を複眼的に読む 二木 立 二木教授の医療時評 (156) 過去の『厚生 (労働) 白書』中の「社会保障と経済 (成長)」関連の記述の変遷 二木 立 第 37 回厚生連薬剤師研修会 (中堅薬剤師フォローアップ研修) 報告 因幡浩二 現代社会と協同組合 (10) 安心・安全な食料の安定供給と協同組合 北出俊昭 韓国農業の実相ー日本との比較を通じて (17) 韓EU FTAと商品・農産物貿易 品川 優 臨床倫理メディエーション (19) 「医療メディエーション」モデルによる意思決定 (4) 中西淑美 神奈川県厚生連伊勢原協同病院第 33 回文化祭 寺西卓史 全国統一献立 寒い冬には欠かせない茨城の「けんちんそば」 唯根理子 「農の生け花」展示・体験会報告 熊谷麻紀 みんなで作った千羽鶴ブルーサークル 伊勢原協同病院糖尿病療養指導士部会 野の風●繊維産業の調査を通じて考えたこと <div style="text-align: right;">永田 瞬</div> デンマーク&世界の地域居住 (104) UR団地の空き店舗を活用 「NPO 法人アイギス」 松岡洋子 熱帯の自然誌 (22) ボルネオ島への移住政策 <div style="text-align: right;">安間繁樹</div> イギリスの社会的企業 地域再生と若者支援:SPACE 2 (1) スペース 2 と YMCA 小磯 明 ▶線路は続く (118) 駅弁大会の楽しみ方/西出健史 ▶最近見た映画 希望のかなた/菅原育子 ▶文化連情報 2017 年総索引 (No.466~477)	

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています (主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

## 企画案内

子どもたちの未来のために 私たちに今できること

## 前川喜平さん講演会inぎふ

- 自分らしく生きたい でも なんだか生きづらくないかい？
- つらいことや 苦しい事や 悲しいことがいっぱいあっても
- 生きる希望と勇気 なくしたくないよね みんなで一緒にがんばろうよ。

■期 日：2018年3月10日（土） 午後6時～（開場17:20）

■場 所：ぎふメディアコスモス みんなのホール  
（岐阜市司町40番地5）

■講 師：前川喜平さん

■参加費：1,000円（大学生以下、および障がいのある方は無料）

\*参加申込みは、電話・FAX・メールにて。先着230名。振込用紙で入場料振り込む。

〒500-8246岐阜市下川手75番地1 加藤久雄

[電話・FAX] 058-272-0889 [携帯] 090-6644-9048 [Eメール] to-katosen@nifty.com

主催：「前川喜平さん講演会inぎふ」実行委員会

前川喜平さん：2017年1月文部省事務次官退任。記者会見で「行政がゆがめられた」と発言し注目をあびる。同年7月には国会の閉会中審査に参考人として出席。現在は自主夜間中学のスタッフ、学校支援ボランティアや講演活動を行っている。

## ccij 公益財団法人 生協総合研究所

## 公開研究会「女性と子どもの貧困～地域や生協で支援できること～」

地域と協同の研究センター共催

差し込みカラー版の案内をご覧ください

■申込み先：地域と協同の研究センター。「お名前」「所属」「連絡先」をお知らせください

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39 生協生活文化会館3F

phone: 052-781-8280 fax: 052-781-8315 E-mail: AEL03416@nifty.com

■研究センター申込期限：2018年2月14日

★★NEWSと一緒にお届けしました★★  
増刊「地域と協同」No.7

第13回東海交流フォーラム特集です。ご一読いただき、第14回東海交流フォーラム（2月24日・土/コープあいち生協生活文化会館）にもぜひご参加ください。

## 「2017国際協同組合デー記念行事in愛知」報告リーフレット

2017年7月7日に開催された記念行事のリーフレットが完成しました。

地域と協同の研究センター 2月の活動予定	
2/1 (木) 組合員理事ゼミナール世話人会, 尾張地域懇談会世話人会	2/15 (木) 暮らしを語りあう会
2/2 (金) 協同組合間協同相談会	2/17 (土) 暮らしと生産をつなぐものづくり③
2/3 (土) 尾張地域懇談会「地域でのささえあい交流会」	2/18 (日) 共同購入事業マイスターコース⑦ (修了回)
2/8 (木) 協同の未来塾⑧	2/21 (水) 生協の(未来の)あり方研究会70th
2/7 (金) 三河地域懇談会世話人会	2/22 (木) 三重地域懇談会世話人会
2/9 (金) 研究フォーラム食と農世話人会	2/23 (金) 常任理事会⑨
2/10 (土) 東海交流フォーラム分散会相談会	2/24 (土) 第14回東海交流フォーラム
	2/26 (月) 市民講座企画検討会⑤
	2/28 (水) 研究フォーラム環境世話人会, 生協総研・公開研究会 (研究センター共催)

地域と協同の研究センターNEWS161号

発行日2018年1月25日定価200円(税・送料込み)

年会費には購読料が含まれています

発行 特定非営利活動法人 地域と協同の研究センター 代表理事 西川 幸城

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39 TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail AEL03416@nifty.com HP http://www.tiiki-kyodo.net/